

小百合 修理なら電気屋呼びなさいよ。あんなの引き入れてどうするつもりよ。

琴子 私、最低生活なんだからね。電気屋なんか来たら、どれだけとられるか。あの人ならお宅の煎餅ですみそうじゃない。番場特選買ったげるわよ。

小百合 まさかタイプだなんて言わないでね。ああいう破滅状況にある男、そそられるんでしょ、あんな……

琴子 やめてよ。もうお嬢ちゃまじゃないんだから……

昭夫の部屋（二階）に明かりが灯る。

小百合 あ、昭夫ちゃん、あそこにいる。中学のときなんて、そこ（小百合の物干し台）から昭夫ちゃん部の部屋見てね、まだ起きてるなんて思ってたんだ。

琴子 よかったね、実らぬ恋でさ……

木部（顔を出し）綿棒かなんかありませんか？ マウスのローラー拭きたいんで。

琴子 ああ、はいはい……（と、中へ入り、ドアを閉める）

小百合 ちょっとちよつとお……

と、追おうとするが、ドアは開かない。小百合、階段を降りていく。

茶の間には福江が現われる。着物姿。玄関の方から来て、いきなり卓袱台の前に座る。追って、直文。こちらは居心地悪そうに立っている。

直文 ……電気、つけないの？

福江 うん……

直文 だって、暗いでしょう。

福江 いいの。しばらくこうしてるから……

直文、ややかしこまった様子で、福江のそばに座る。

直文 そんな寂しいこと言わないで……

福江 寂しくないわよ、別に……

直文 寂しいよ……

直文、立ち上がり、電気をつける。福江、直文に背を向ける。

直文（また座り）ほら、こっちを向いてちょうだいな。

福江 やだ……

直文 じゃ、僕がそっちへ行きますか……（と、立ち上がろうとする）

福江 やだ！ 来たら噛みつくから……

直文（また座り）困りましたねえ……

電話が鳴る。福江、ベルの音を少し聞いてから出る。

福江 はい……あ、ごめんなさい！ 今日私の番だったわね。生きてますよ。大丈夫ですよ。今日はね、お友達のおうちにお呼ばれだったの。今帰ってきたとこ。心配させてごめんなさい。……うん、その息子さんのご夫婦がね、とってもよくしてくださって、スパゲッティの名前のわかんないの、ご馳走になりましたよ。とってもおいしかった。サラダも出たわ。これもシャレてね、名前のわかんないお野菜が入ってた。外国のかわね、高そうなお野菜。(笑い) 私、とっても緊張しちゃって、その名前のわかんないお野菜を床に落としてね。恥ずかしかった……そう、お箸が一番よ。ナイフとフォークなんか使うもんじゃないわねえ……はいはい、明日は必ずかけますよ。おばあちゃんも頑張って生きててね。はい、それじゃ……(切る)

福江、また座って押し黙る。

直文 あなたは大変に素敵でしたよ。ちつとも、気にすることなんかない。

福江 ……

直文 そりゃ、多少、いつものあなたより、落ち着きがなかったかもしれないけれど、それは文彦が、あんな態度に出たからで……全く、どうしちゃったんだろうな、アイツ……

福江 ……

直文 きつと、あなたが予想以上に素敵だったんで、あわてたんだな。そうだ、戸惑いの表れですよ、あれは……

福江 ……

直文 もつと穏やかな、茶飲み友達を期待してたんだな、ウン……決してそれ以上であってほしくはなかったんだ。いや、うかつでしたよ、僕も。日頃の言動からして、そう物分かりのいい方じやないってのはわかったのに、つい期待するところがあつて……

福江 ……

直文 ですからねえ、コレ、あが君、ちよつとこちらを向いてたもれ。

福江 ……

直文 ですから、ここで言い出しちゃまずいと、僕も警戒したわけです。ここは長期戦で行こうとね。テキの出方を見ながら……

福江 ……

直文 アイツもたぶん、反省してる。見送りに出なかったのは、あれは自分が情けなかったからだ。今頃自己嫌悪だよ、ウン。康子だって、亭主のあんな振る舞いには黙っちゃいないだろうからね。今頃お説教されてますよ。帰ったら、謝るんじゃないかな。そうだ、帰ったら、すぐ言おう。ウン、このタイミングがいいかもしれない。帰ったら、すぐアイツを呼びつけて、おい、父さんの決意を聞け。父さんはあの人と……

福江 もういいわよ、できもしないことを……

直文 言つてやる。猛烈に腹が立ってきた。

福江 言えやしないって。言えないから、ここで言ってるのよ。

直文 今言つてやる！ 帰るまで待てない。

直文、机の前に行き、電話をかけ始める。

福江 (少しあわてて) あが君、やめてよ、私がやらせたみたいに思われるから……

直文 (電話に) あ、康子さん。文彦呼んでくれないかな。早急に話があるんだ。……え? 風呂入ってんの? ……あ、そう。いや、いいよ。自分で言うから。じゃ…… (切って) 風呂だって。いつもより早いな。後でまた……

福江 ホツとしたって顔してる。

直文 してませんよ。

福江 してるわよ。さっき言えなかったことが、何で今言えますか。言わなくていいわよ。その気もないくせに……

直文 その気もない? じゃ、僕が今日、息子夫婦にあなたを引き合わせたのは、あれは、その気もなくてやったことなんですか?

福江 あつてもないのよ、直ちゃんは。私、わかったもん。直ちゃんが私のこと恥ずかしがってんの……

直文 そりゃ、照れはありますよ。この歳になつての、こういう成り行きは……

福江 そうじゃなくて、直ちゃんは私のこと恥ずかしがってた。こんな、小学校しか出てないような、ナイフもフォークも使えないような、飛行機にも乗ったことがないような……

直文 今度乗せます! 新婚旅行で乗りましょう!

福江 やだ! そんなの乗ったらまたヘマやるから。あなたが恥かくの見たくないもの。

直文 恥なんかきません! 僕はあなたが誇らしい。あなたほど素直にいろんなことを間違えて、「これ、なあに?」と何のてらいもなく聞く人を、僕はかつて見たことがない。感動します。人間

はこうでなきゃいけない……

福江 二人つきりでいるときはさ、直ちゃん、私の馬鹿にも感動してくれるよね。コンセプトのこと、コンセプトって言っても、大笑いして喜んでくれる。でも、人の前では違うじゃない。今日だって、掛け軸の字を間違えて読んだとき、直ちゃん、顔がこわばってた……

直文 あれは、来てすぐだったから、いや、こわばったりなんかしませんよ。

福江 こわばった顔して、すぐに文彦さんの方を見て、文彦さんが呆れた顔してんの見て、ますます顔がこわばって……

直文 そんなことないって……

福江 あ、ここは違う世界なんだって、すぐに思った。ここじゃ、いつもの直ちゃんと私じゃ通用しないんだって……

直文 もういいから、先のことを考えようよ。

福江 恥ずかしかったわ。トイレのスリッパ履いたまんま戻ったときも。お孫さんが、すぐに見つけて笑いだして、私もここは笑うしかないって笑ったけど、直ちゃんは……

直文 僕も一緒に笑ったでしょう。

福江 下向いてね。下向いて笑った。本当に恥ずかしそうだった。

直文 そう見えたのなら、ゴメン。そうじゃなかったんだけど……

福江 お嫁さんも大学出てんのね。そんなの、今は普通か。でも私、大学出てる人が三人もいるところに行ったことないのよ。急にそんなこと思ったら、もう口もきけなくなっちゃって、あとはただ、サラダをこぼすだけよ。スパゲッティも鼻の頭にはね返ったしね。お宅の孫、よく笑うわね……直文 家族のみんなに、あなたの素晴らしさをわからせたい。もう一度チャンスをください。あなた

がのびのびと振る舞えるような雰囲気を作るから。

福江 文彦さん、何で急に土地の話なんか始めたの？ この土地はそっくり子供に残したいなんて。まるで、私がかつさらってでもいくみたい……

直文 あれは口癖だよ。アイツの仕事だって、そううまくいつてるわけじゃないんだから……

福江 そうかしら？ 今さら結婚なんてさせないぞって、そう言ってるように聞こえた。

直文 反対なんてさせないよ。こっちは自由だ。

福江 昭夫もこんなの承知しないわ。今のあの子がこんなこと聞いたら……やっぱり私たち、このまんまがいいんじゃない？

直文 僕はね、毎日残り時間を考える。これまでの、生きた時間も考える。生きたいように生きた時間、そのうちどれだけだっただろう。この先に残された時間も、今までのように過ごすのか？ 男の平均寿命から、自分の歳を引いたりする。そして、あわてる。本当は、もつともつと少ないかもしれないのに……

福江 直ちゃんも歳よりずっと若いわよ。初めてお教室覗いたときね、あな若々しうて思つたわよ。六十二、三かなうて。

直文 あな憎し！ それねえ、この前は五十五、六つてのたまひけるにあらずや？

福江 そうだったっけ？

直文 ほら、記憶の中の僕にしたって、年令は一挙に七、八歳も上がつて。つきあつてみたら、歳だったんだよ、やっぱり。残り時間を考えましようよ。一緒に暮らそう。コソコソしないで、堂々と、カップルとして……

福江 暮らせば、困る、直ちゃんが……

直文 困りません！ 友人にもパートナーとして紹介したい。その着物がいいなあ。またそれを着てください。その色合いが月影に映え、あなたの美しさがいつそうさええと……

福江 お友達って、お偉い先生方なんですよ。直ちゃん、今日より恥かくわよ。

直文 いい加減にしないさい。死んだ女房にだって、これほどの口説き文句は並べませんでしたよ。全くもう……（と、ガラス戸に向かって立ち）行きめぐりつひにすむべき月影のしばし曇らむ空な眺め……（と、夜空を眺める）

福江 ……

直文 はい、今のを口語に訳して。

福江 えっ……

直文 先週やったところです。須磨の段。光源氏が花散里にこう言いましたね？

福江 （覚束なげに）ああ、花散里にね……

直文 どういう意味ですか？

福江 え……

直文 行きめぐりつひにすむべき月影の……

福江 行きめぐって……ついに……ついに住むべきである……

と、ガラス戸を向いたままの直文に気づかれぬよう、机の抽斗の方に寄る。

直文 ノート見ちゃ駄目！

福江 （立ち止まり）……

直文 「すむべき」の表す意味は？  
福江 え……

直文 つひにすむべき月影の……

福江 あ、月に、影になって出るように、やがては住むべきだという……

直文 月に住む？ 兎みたいに？

福江 じゃなくて、最後にはみんな月に行くという……

直文 月に行く？ アポロの宇宙船みたいに？

福江 じゃなくて、本当に行くんじゃないくて、魂がさ……

直文 いいですか。たぶんあのときの源氏はこういう風情ですよ。（と、ある表情をもって月を眺め）  
行きめぐりつひにすむべき月影のしばし曇らむ空な眺めそ……さて、そのココロは？

福江 月を眺めている……

直文 どんな思いで？

福江 曇ってるなあと思つて……

直文 源氏は天気予報でもやつてるんですか？

福江 もういい！ こんなときにお勉強なんてやあよ。

直文 源氏はね、曇のかかった月を見て、こう思つたんです。今はいろいろな誤解を受けているけれども、やがてはその誤解も晴れる。時がめぐりめぐつて、あの月影の曇りもとけ、澄んだ明るさに輝くように。そして、ここが掛け詞（ことば）ですね、あなたとも住む、つまり暮らすね、そういうときが来るから、どうか悲しまないでくださいと。

福江 住んだの、花散里（はなぢり）と？

直文 いや……

福江 そうよね。その後もいろんな女のとこ回つて、言つてもしょうがないようなこと言つて……

直文 そうだけだね、感慨深いじゃないですか、こういう困つたときにも、源氏と心を重ねられる、そういう状況に僕たちはいるんだ。教授時代なんてのは、仕事と生活に追われるだけで、源氏は講義のテキストに過ぎなかった。今はね、ちよつと現実だ。

福江 感慨深いわ、私が花散里だつてとこが。紫の上じゃなくつて。

直文 こないだやつたばかりだからだよ。紫の上にしたつていいですよ。

福江 お風呂、出たんじゃないの？ 電話してみたら？

直文 え……うん……

直文は動かない。

福江、机の前に行き、受話器を取り上げて、直文の方に向ける。

福江 ほら、つひにすむべき月影のつて、文彦さんにも言つてやつてよ。

直文 やっぱり、顔見て言う方がいいよ。電話じゃさ……

福江、受話器を置き、座る。

福江 帰つて。今日でオシマイにしましょう。

直文 オシマイ……？

福江　こんなのたくさん！　もうたくさんよ。私、恐い、こういうの。いい歳してって笑われる。笑われるんならまだいいわ。みんなきつと気持ち悪がる。七十過ぎて、いやらしいって……

直文　どこがいやらしい？　どこが気持ち悪い？　僕たちが、こんなに幸福になれる関係が、いやらしいはずないでしょう。全世界に言ってる。何か、文句あるかあって。

福江　笑わせんじゃないわよ、このコンコンチキ！　あんなに息子にヘーコラしといて、全世界とは恐れ入る。安全地帯で吠えてんじゃないよ！

直文　あが君、どうか……

福江　あの高慢チキな息子は何だい！　うちの悪魔より凄じくないか！　あんなの育てた腑抜け男とロマンスするほど暇じゃないよ！　出て行って！　おととい来やがれ！

直文　うまくやりたいんだ、わからないかな、逃げてるんじゃないんだよ……

直文、福江を抱きしめる。

福江（泣き出し）　似合わないんだから私たち、今日の、文彦さんの、私を見る目……ああいう目にみんながなるんだ……

直文　乗り越えよう。悪魔も文彦も。全世界を踏み倒して行こう……

福江　直ちゃんて、口ばかりねえ。勉強すると、そんなに意気地がなくなるの？

直文　できる、福江さんさえいれば、これまでできなかったことも、きつとできる……

福江　悪魔がこういうとこ見たら、死ぬわね……

二人、だんだんとキスの態勢。階段に隠れていた昭夫は飛び出す。

昭夫　やめろよ！　ホントに死ぬから！

福江と直文、仰天して離れる。

昭夫、そのまま茶の間を突き抜け、台所へ。流しの前に立つ。

昭夫（台所で）　ぶお……（と、吐きそうな声）

直文　あらあ……

福江　何だい、気分が悪いのかい？

昭夫　……

福江　そうなる前に、咳払いぐらいしなさいよ。すぐに出てくりやいいものを、同情なんかしないわよ。

昭夫　……

福江　こういうのはね、勝手に見た方が悪いんだ。私、恥ずかしくなんかないからね。直ちゃんだって、そうですよ。私たちは、誰憚ることもない……

直文　福江さん……

福江　言いましようよ。こうなっちゃったんだから……

直文　でも、あんなご様子でいらつしやるのに……  
福江　芝居よ。意地が悪いったら……

昭夫　ぶお……

福江　昭夫、ホントに吐きそうなの？

昭夫　……

直文　帰ります。僕はいない方がいい……（と、足早に出ていく）

福江　直ちゃん……（と、追う）

昭夫、台所から出てきて、ただ立っている。福江、戻ってくる。

福江　スパイだね。会社じゃこういうことは普通かい？

昭夫　……

福江、階段を上がりがける。

昭夫　その足袋、父さんの作った足袋だろ。

福江　（立ち止まり）……

昭夫　そんなもん履いて、よくあんな男と……とんでもねえぞ！

福江、階段を上がっていく。

昭夫　母さん、ホントに母さんかよ！　悪魔になったの、母さんじゃないか！

昭夫、立ちつくしている。